

# 日本語教育実習を振り返って

所属講座・学年：日本語教育学講座M2

氏名：梶原彩子

## 1 反省

今回の教育実習に参加して、気づいたことがふたつある。(1) 自分自身の授業のやり方が固まっていることと、(2) コース全体の構成を捉えることの大切さである。

(1) 自分自身のやり方が固まっていることに気づけたことは、教育実習に参加して、とても大きな収穫だった。実習で、他の実習生やTAの方の授業を見学する機会を得て、いろいろなアプローチの仕方を実際に目にすることができ、勉強になった。また、そのあとの振り返りを通じて、過去に自分がいた環境が今の自分に影響を強く与えていることを実感した。例えば、高校生を相手に教えた経験は、自分のコントロールの強さや発問の仕方と関係があると感じたし、「ある程度決まった型でやりたい」という意識を自分が持っていることは、過去の自分の成功体験・失敗体験とのつながることに気づいた。

今の自分の授業を作っているものは、過去の教師としての成功体験・失敗体験である。しかし、その失敗・成功は「あるひとつの環境」で試して得た結果であって、今後、私が日本語教育に携わる環境とは異なることが多いだろう。教師として、いろいろな授業のやり方の引き出しがほしい、また、違うやり方に挑戦するという気持ちを常に持ち続けたいと強く感じた実習だった。

(2) 今回、コースデザインから実習生で行うことで、全体の流れをよく知ることができた。また、TAの方と2人の実習生というチームで1日を担当したため、1日の構成を意識することの重要性を強く実感した。今までは、なかなかコースの中でこの時間の目標の位置づけやその週の目標を頭に入れて取り組むことはできていなかったが、今後は意識して取り組むようにしたい。

## 2 今後の課題

今後は、常に「今の時間がコース全体でどの位置づけにあるのか」「この活動を何のためにやるのか」「この時間に何ができるようにしてほしいのか」と「なぜ」の部分自分を問いかけながら、教案を作るようにしたい。また、実習後の授業で行った振

り返りの内容、視点を今後は自分自身で気づき、活かせるようにすることも課題である。